

「消防団に入団して」

明石市消防団
第六分団中尾班

井上 健太



を感じたからです。そこで、自分にも何かできることはないかと入団を志望しました。
昨年から続く景気の悪化や大手企業の人員削減等、様々な問題を抱えたまま、平成二一年を迎える事となりますが、地域の方の安心と安全を目指し、消防団員としてだけでなく、人間として大きく成長し、精神面や技術面等、色々な面で飛躍できるように頑張りたいと思います。

私が消防団の活動に目がいいたのは、地元の住吉神社の中尾青年会OBの先輩方が熱心に年末警戒を行い、さらに、見事なチームワークで役割分担をし、地域活動と仕事を両立されている姿を間近にし、消防団活動の地域においての重要性と必要性

われら若手消防団員

消防団の活動について

新温泉町消防団

橋 健士



私が消防団に入ることになったきっかけは、ある先輩団員の方に声を掛けて頂いたからです。

元々ボランティア活動には興味がありましたが「会社員である自分のできるのだろうか？」と考え、何度も断っていました。しかし既に団員であった友人達に相談したりして入団することに決めました。

入団した当初はあまり気にも留めていませんでしたが、団員

地区通信

南あわじ市総合防災訓練を実施

南あわじ市消防団

今後三〇年以内に五〇〜七〇％の確率で発生すると言われている東南海・南海地震及び津波による災害に備えるため、平成二〇年一〇月十九日(日)、南あわじ市総合防災訓練が御原中学校グラウンドをメイン会場として開催されました。

地元住民や消防団員、陸上自衛隊、第五管区海上保安本部、兵庫県警察本部、淡路広域消防事務組合、自主防災組織など約一万人が参加、午前八時〇〇分

実際には火災や災害はいつ起こるか分かりません。出動時に備えて今後もより一層、普段の訓練を積み重ねて消防団の活動を頑張っていきたいと思います。



倒壊家屋からの救助



土嚢積み訓練

孤立化が予想される沼島では、今春完成したヘリポートから負傷者を搬送する訓練も行いました。また、消防団各方面隊の訓練として、火災や災害時の通信手段として有効な無線を利用した情報伝達訓練も行いました。

訓練に参加した人たちは、身近に迫っている東南海・南海地



応急救護訓練

震に備え真剣に取り組みました。

南あわじ市消防団は、今後このような訓練を通じ、消防団と地域住民の連携のもとに、安全で住みやすいまちづくりに向けて取り組んでいきます。

わがまちの団長さん

157

「強力なリーダーシップ」

福崎町消防団

城谷 英之 団長



福崎町は、兵庫県の中播磨地域の中心に位置し、市川中流の両岸にひろがり、豊かな自然と日本民俗学を確立した歴史に名を残す柳田國男生誕の地で歴史と文化が漂う魅力あふれるまちです。

福崎町消防団は、城谷団長以下、副団長二名、支部長三名、

副支部長三名、団員五九一名、消防車両三四台をもって地域の安全・安心のため活動しています。

城谷団長は、平成五年に福崎町消防団に入団され、平成十六年に本団幹部として副支部長に抜擢。平成十八年からは副団長をされ、平成二〇年に団長に就任。持ち前の行動力と情熱で火災現場においては、率先して消火活動にあたられています。

団長は、いつも真剣に、何事にも積極的で、先頭に立って行動され、『俺についてこい』という心意気で団員を指導、統率していく力は、ずば抜けたものがあり、あらゆる災害現場・訓練においてリーダーシップを発揮されています。

その強力なリーダーシップをもって、昨年八月に開催された第二回兵庫県消防操法大会においては小型動力ポンプの部で、福崎町消防団を優勝へと導かれました。

普段の団長の素顔は、悩んでいる団員がいれば、親身になって話を聞き、熱く語られ、悩みを解決させるといった具合に兄貴分的な存在でもあります。

城谷団長が就任されてから早や一年が過ぎようとしています。が、これからも益々奮闘いただき、福崎町消防団を牽引し、災害から町民の生命、身体及び財産を守るリーダーとしての活躍が期待されています。



北から南から

丹波篠山築城四〇〇年祭

〜今後一〇〇年にむけたまちづくりがスタート〜

篠山市支部

篠山城は、一六〇九年（慶長十四年）に築城され、徳川家康の末子・松平康重が初代城主として入城してから今年で四〇〇年を迎えます。篠山市では、この節目の年を記念して「丹波篠山築城四〇〇年祭」と銘打って、平成二十一年四月四日から一〇月三十一日まで記念事業を行います。

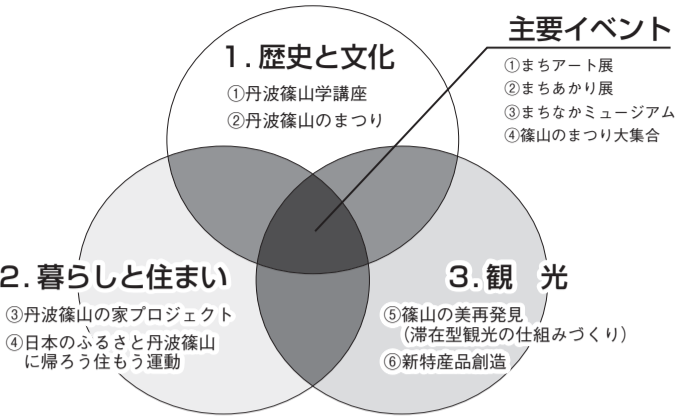
この節目の年を迎えるにあたり、われわれ篠山人（ささやまびと）が、これまでの丹波篠山の歴史や文化を振り返るとともに、日本人が忘れかけている大切な感性を再創造し、次世代につなぐ丹波篠山の暮らしをデザインします。そして、次に

なぐまちづくりのきつかけとして、二一世紀型の持続可能なまちづくりを提案するための記念事業を展開していきます。

四〇〇年祭は、単に一過性や城周辺のイベントとして終わらせるのではなく、市全域を対象として「歴史と文化」「暮らしと住まい」「観光」の三つのテーマに基づき、市民の皆さんや丹波篠山に魅力を感じる皆さんとともに「懐かしくて新しい」未来を創り上げることを基本理念としています。そこで、この基本理念を実現させるため、左図に掲げた三つのテーマと六つの小テーマに基づき展開します。

いずれのテーマも過去から受け継がれたものや再認識し、それに新しい考え方を付け加える。これを「懐かしくて新しい」「丹波篠山スタイル」とします。

築城四〇〇年祭は市民が創る市民主体のまつりとするため、イベントのアイデアなどを広く公募し、それぞれ「主催事業（実行委員会が直接行う事業）」、「協賛事業（経費の一部を助成する事業）」、「自主事業（冠を使用する事業）」として整



テーマ図



篠山の美

北から南から

「家島町消防団出初式」

姫路市家島町消防団

私たちのふるさと家島町は、姫路市街から南西約十八kmの播磨灘に浮かぶ大小四〇余りの家島諸島で構成されています。

瀬戸内海国立公園にも指定される美しい景観と澄んだ海を持ち、海水浴や釣りを楽しむ人、新鮮な魚介類を求める人でにぎわっています。

家島町は、離島という地理的条件のため、消防活動等において他地域からの応援が難しく、四分団、定員一七〇名体制はもとより、住民、地域自治会の協力のもと、出火から鎮火まで地域一丸となり自己完結型の活動

理しました。このほか、四〇〇年祭にかかわってみたい、応援してみたい、そんな方たちの人材（ボランティアスタッフ）登録も進めています。

また、去年の四月には四〇〇年祭の情報発信と交流の拠点として、「まちづくりポケットこらぼ」を篠山市民センター内に開設。互いの情報を交換する「情報スペース」、ホンモノの篠山の魅力を展示する「展示スペース」、市民の皆さんや各種団体などが四〇〇年祭について話し合う「交流スペース」を設置し、四〇〇年祭に向けて本格的にスタートしました。

そして忘れてはならないのが、丹波篠山築城四〇〇年祭

に際し、丹波篠山らしさを表現し、子供から大人まで親しみを持てるものとするため、地元の小・中・養護学校生から公募を行い、決定されたマスコットキャラクターです。応募作品は、一、二、三、七点が寄せられ、最優秀賞に輝いた「イノ丸」に一部修正を加え、「まるいの」と命名しました。是非一度足を運んでみてください。



公式マスコットキャラクター「まるいの」

われわれ篠山消防団は、この歴史と文化ある丹波篠山の地を守り、篠山の自然や、まちなみの美しさを次代に残していくべく、今後も頑張っていく予定です。



平成21年1月17日家島町消防団出初式一斉放水



出初式行進



住民指導

編集後記

立春とはいうものの、まだまだ肌寒い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、今月号では平成二〇年度日本消防協会定例表彰について掲載しております。また、消防団今昔には上郡町消防団長松本隆雄さん、猪名川町消防団長福田康司さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。

今年もインフルエンザが流行する時期がやってきました。今年はい手洗いはもちろん、予防のためにマスクをしている方も多く見られますが、火災とおなじく未然防止に努めたいですね。

「兵庫消防」は皆様の寄稿をお待ちしております。各地域での催し物やニュースがありましたら、是非ご紹介ください。

「こんにちは！兵庫の消防団です」



<http://www.hyogoshoubou.jp/>